

# 全国保健所長会 だより

## 全国保健所長会総会報告

全国保健所長会副会長／茨城県土浦保健所長 入江ふじこ

### はじめに

第80回全国保健所長会総会は、令和5年10月30日(月)につくば国際会議場において、4年ぶりに表彰式、総会、研究事業報告、会員協議がすべて参集のみで通常開催されました。

### 総会の概要

本会会長の大分県東部保健所の内田勝彦所長からあいさつがあり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止、感染者の療養支援に尽力した全国の保健所職員の労をねぎらうとともに、欧米諸国に比べてわが国の感染者数や死亡者数が低く抑えられたことは、全国の保健所が積極的疫学調査と濃厚

接触者への健康診断、行動自粛要請等の対策に熱心に取り組んだ成果だと考えていると話されました。

また、国においては「感染症法」を改正し、各自治体は感染症対策連携協議会で予防計画を策定中であるが、医療と保健所の役割分担、連携について十分協議を行い、地域の実情に応じた体制整備に努め、これまでも増して保健所機能強化を図る必要があること、さらに本会の委員会や研究事業など幅広い公衆衛生分野の活動にも引き続き会員の協力が必要であることを述べられました。

第69回全国保健所長会長表彰では、全国から53名の功労者が表彰され、会長から長年の公衆衛生行政への貢献に感謝と敬意の表明がありました。

### 研究事業報告

なお、全国保健所長会名誉会員として、中川昭生氏(福島県)、三木優子氏(愛媛県)が推戴されたことが報告されました。

また、次回、第81回全国保健所長会総会は令和6年10月28日(月)に北海道札幌市で開催される事が承認されました。

1. 公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業

横山勝彦所長(香川県東讃保健所)を分担事業者とする研究班は、若手医師・医学生向けサマーセミナー、公衆衛生医師合同相談会オンライン開催など工夫を凝らした実践事業のほか、公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会と連携して実施した「医学部生の就職活

### 会員協議

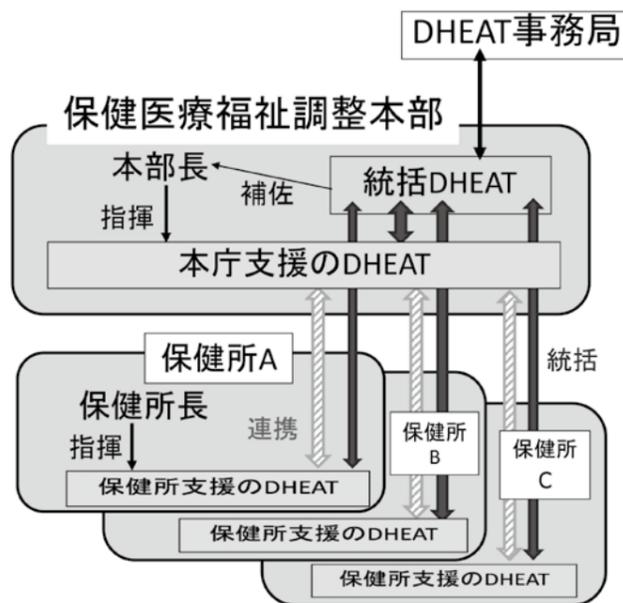
矢野亮佑所長(盛岡市保健所)を分担事業者とする研究班は、外国人研修の内容の標準化と質のさらなる向上を目標とした「日本の保健医療を学ぶ外国人研修生向け教材集(医療制度編、保健所編)」の作成、保健所の外国人対応能力強化を目標とした精神保健対応事例調査、「保健行政窓口のための外国人対応の手引き」の更新等について報告しました。矢野所長からは、「地域公衆衛生とグローバルヘルスはつながっている(地域公衆衛生からグローバルヘルスに貢献する、およびその逆の貢献もあり)」というメッセージがありました。

はじめに情報提供として、鷹箸右子所長(八王子市保健所)から、

「新型コロナウイルス対応において保健所設置市と保健所が果たした役割」として、全国67の保健所政令市(中核市等)を対象とする3年半の新型コロナウイルスに関するアンケート調査の結果について報告されました。各市で大幅な職員の増

員や情報管理のデジタル化(DX)、医療管理に関する独自の地域ルールの設定などの工夫をしながら、未曾有の健康危機を乗り越えることができたが、一方で新型コロナウイルス対応に起因した離職が見られたと報告されました。

DHEATはそれぞれ本部長、保健所長の指揮下で活動する。本庁支援DHEATと保健所支援DHEATは連携して活動し、統括DHEATが統括(とりまとめ)する。DHEAT事務局と統括DHEATは情報共有する。



指揮: 全体がまとまりをもって動くよう、人の上に立って指図をすること。  
統括: ばらばらのものを一つにまとめること。

『大辞泉』より

図 DHEATの指揮系統と統括系統のイメージ

その後、白井千香所長(枚方市保健所)と筆者(茨城県土浦保健所)が座長を務め、「DHEAT活動の推進について」これからの期待」を主題として、3人の演者による講演と討論が行われました。

最初に、内田勝彦所長(大分県東部保健所)から「統括DHEATの配置と役割などについて」として、令和5年3月のDHEAT活動要領改正により、統括DHEATは専門的な研修・訓練を受けた都道府県から任命された者(公衆衛生医師等)とされ、その役割は都道府県の保健医療福祉調整本部の機能の強化および被災保健所等との連携の強化であり、災害時の統括DHEATは被災都道府県の統括DHEATが任務に当たることが説明されました。

続いて、池田和功所長(和歌山県岩出保健所)は「養成研修の地域ブロックへの拡大」として、DHEATの指揮系統と統括系統のイメージについて説明され(図)、DHEAT構成員の技術機能維持向上および災害時の円滑なDHEAT派遣のために、自治体におけるDHEAT登録と継続的な訓練が

動におけるデジタル情報およびリアル情報の活用状況アンケート」「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集の作成」等について報告しました。

2. グローバル化時代における保健所の機能強化と国際社会への貢献に関する研究

矢野亮佑所長(盛岡市保健所)を分担事業者とする研究班は、外国人研修の内容の標準化と質のさらなる向上を目標とした「日本の保健医療を学ぶ外国人研修生向け教材集(医療制度編、保健所編)」の作成、保健所の外国人対応能力強化を目標とした精神保健対応事例調査、「保健行政窓口のための外国人対応の手引き」の更新等について報告しました。矢野所長からは、「地域公衆衛生とグローバルヘルスはつながっている(地域公衆衛生からグローバルヘルスに貢献する、およびその逆の貢献もあり)」というメッセージがありました。

最後に、鈴木陽所長(宮崎県大崎保健所)から「DHEAT活動を通じた危機管理体制の整備」として、宮城県における保健所災害対応研修(DHEAT基礎編)を活かした危機管理体制構築の取り組みとして、保健所、都道府県、地方ブロックの3つのレベルで訓練等を重ね、技能維持や連携体制の強化に取り組んだ実例が紹介されました。

討論では、統括DHEATが県庁内組織で果たす役割、DHEATの登録制度の構築、地方ブロック内研修の具体的実施方法等について、活発な意見交換が行われました。さらに委員会や研究班を代表して、中里栄介所長(佐賀県杵築保健所)、服部希世子所長(熊本県人吉保健所)、西田敏秀所長(宮崎県高鍋保健所)から指定発言をいただき、大変充実した会員協議となりました。